

第 4 回神戸市立工業高等専門学校 今後のあり方検討委員会の概要

令和 3 年 8 月 3 日



課題解決と理想の将来像の実現に向けて

(主な委員意見)

●優先的に一体運営を検討すべき相手について

- 中期目標の関連性も見て、強みをより活かし合える相手が望ましい。また、市の施策と連動して、市政の中での位置づけを明確にすることが非常に大切なことだ。
- 神戸高専を主軸に、外大と看護大の特徴を整理した時、グローバルな対応、親和性という意味で外大に一日の長があると考え。一体的な運営では、いきなり組織を融合する必要はなく、それぞれの強みを更に強化し、可能ならそれぞれで強みを活かせる運営を今後検討できれば理想的だ。
- 高専と大学が一緒になることの説明は、お互いに組むことで多様性が生まれ、違う価値が生まれるというダイバーシティの観点から、神戸市民にとっては分かりやすい。リストラや行革ではなく、一緒になることで、より多様性を追求することができて、世の中の大きなトレンドに向かっていくのだと理解して頂きたい。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●最先端技術に対応した教育カリキュラムの充実について

- 前提として、インフラとしてのPCのリソース、Wi-Fiネットワークの整備、クラウドの利用等の環境整備を進める必要がある。これによりAI系のプログラミングを含めた教育の導入が可能になる。
- プロジェクトをベースとした教育に比重を置けば、イノベーティブなエンジニア育成に効果的だ。また、イノベーティブ人材の育成に向けた最先端機器の利用では、あらゆる機器を刷新することが難しい中、今後活躍する機器を選択するなら、3Dプリンタとレーザー加工機を整備すべき。これらを使用するためのCADのソフトウェア整備を合わせて進めれば、自由な加工・ものづくりが可能となり、AI技術の習得にもつながる。
- エンジニアの分野におけるグローバル人材の育成で、連携先を考える場合は、多くの大学も実施するように、相手側もエンジニアで、かつアジア圏でのパートナー大学が比較的組みやすい。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●教職員の資質向上、新しいカリキュラムの実施に必要なリソースの捻出

- リソース確保の観点からは、事務の効率化が重要だ。教員の事務作業が煩雑化する中、業務量調査やヒアリングを経て、教員から上手くタスクを切り出して、新たに確保した非常勤の事務職員に集約することや、一時的にはコスト増になるが、ICT等のシステムの導入で長期的な事務効率を高める事も検討すべきだ。
- 企業でも何か新しい気づきを求める際にはコンサルティングの活用が一番早い手段だ。当事者と違った目線で確認することになり、自ずと優先順位等も変わってくるので、新しい教育カリキュラムの構築にも、そのような外部の力を借りることも一つだ。
- 企業との間に入って調整できるコーディネーターが重要となるが、新しいカリキュラム構築に必要な人件費の捻出という課題に対して、企業から寄附金だけでなく、講座で教える教員の派遣も受ける寄附講座のような仕組みを上手く活用できれば、教員の負担を増やさずに実施でき、リソース不足の解消に貢献できる。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●小中学校や市立高校との連携

○小・中学校で実施されるプログラミング教育への取組協力としての連携を強化・充実してはどうか。高専の学生が小・中学生に教えるアクティブラーニングの体験は、高専生と小・中学生の相互にプラスの体験となって、各々の習熟度向上が期待できる。

○市立科学技術高校や小・中学校との連携は、神戸市が大学、高専を持っているからこそできる地域貢献であり、一体運営後も今まで以上に推進するべきである。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●研究開発と人材育成を促進する資金確保

- 一体運営を契機に保有資産を見直して、設備の中で稼働率の低いものは所有するのではなく、企業と連携して借りるなど持つべき資産を整理すれば、売却によって資金を作り出せる機会にもなり得る。
- 外部資金、競争的資金の獲得は容易ではないため、URA（University Research Administrator）を活用し、競争的資金の募集の有無や申請書類の作成におけるアピールポイント等をチェックしてくれる人材を配置するなど、専門のノウハウを有する人材を活用していくことが必須である。
- 企業が学校への寄付を検討する際には、社員に当該校の卒業生が多いほど、優先順位が高くなる傾向があるとも聞く。教育カリキュラムに魅力ある地元企業との連携プログラムを組み込んで接点を増やし、卒業生の地元企業への就職につなげることは、結果的に企業サポーターを増やし、将来的により多くの寄付や連携事業につながる取組となる。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●市の施策との一体性確保、連携の推進、市のステータス向上

- 神戸高専や外大における人材育成の教育が市の施策の一部であり、一翼を担っていることを市民に感じてもらうことが非常に重要だ。市全体の施策と一体運営後の大学法人の経営戦略、目指す方向をすり合わせる議論ができる場を、意識して設けていくことが重要である。
- 男女共同参画・女性活躍の観点で、男性だけではなく、女性も受験して通いたいと思えるような神戸高専を目指していく必要がある。外大は女子学生が多いということもあり、今回の検討を契機に、性別を問わずに学べる場になることを期待したい。
- 最近の学生は仕事をしていく上で地球、社会に貢献する手応えを求めるなど非常に意識も高いので、一体運営後の新しい法人では、神戸市ならではの地球的課題の解決に寄与するようなテーマを前に打ち出していけばよい。外部資金を獲得するうえでも、必要な視点である。



課題解決と理想の将来像の実現に向けて（続き）

（主な委員意見）

●その他

- オンラインを活用した遠隔授業の実施には、高専と大学が異なる設置法によるために、細かい縛りに異なる点があるなど、実際の事業を詰めていく段階では、調整が必要になることが多く発生することには注意が必要となる。実際に事業を実現していくには大学や高専の現場にやり方を任せるだけでは難しく、市からの資金やコーディネーターなどのリソースの支援が必要となる。
- 一体運営により1法人で高専と大学を運営することになるため、法人として教育カリキュラムや人事などの中長期的なマネジメントをどのように行うのか決めておく必要があり、新しい法人の理事長や理事が両方の学校の組織・運営を理解していることが重要である。
- 今後、様々な取組を進める中で一番重要なことは、教職員、携わられている方の意識が変わること。教育カリキュラムの改革や外大との一体運営をチャンスと捉えて組織を変える、いろいろな内容を変えることができると考えられれば、今よりさらに強い高専になれる。

